

山形の農業をめぐる動き

(日本農業新聞などから)

1月	5日	天童の花輪さん、超早出しサクランボ出荷500g15万円	7月	9日	農林年金など、一時金選択推進へ受給者説明会スタート
	7日	最上伝承野菜フェア。2月11日まで		10日	米生産数量目標「深掘り」推進を再確認(J Aグループ山形)
	15日	日豪経済連携協定(EPA)発効		14日	初心者向け狩猟免許講習会に過去最多116人受講
2月	19日	農協改革で県選出国会議員に要請(J Aグループ山形)	8月	23、24日	T P P断固反対山形県連絡会議が県内一斉緊急街宣活動
	20日	山田正彦・元農相招き、T P P学習会(山形市)		30日	高温続きで県、J Aなどが技術対策会議
	21日	農協改革で自民党県連と意見交換会(J Aグループ山形)		6日	高温続きで現地調査(県とJ Aなど)
	23日	県が雪害事故防止週間設定。2月8日まで。雪害昨年6倍		7日	2016年産「つや姫」、1100ha増の8800ha。中小農家にも拡大
3月	26日	報道機関と農協改革で意見交換(J Aグループ山形)	9月	10日	2014年度食料自給率5年連続39%。農水省発表
	27日	吉村美栄子知事、J A女性部と意見交換開始		11日	ミラノ万博山形県実行委員会設立
	28日	J A庄内みどり寿司米研究会「笑みの絆」試食会		11日	異常高温、雨不足で県、J Aなどが緊急対策会議
	1日	農協改革で自民党県選出国会議員、県議と初の意見交換会		28日	J A全中・新会長に奥野長衛氏(J A三重中央会)。
4月	10日	農協法改正案の骨格固まる	10月	3日	北海道・東北各県農業法人WE E K2015(天童)
	12日	農協改革で緊急合同検証会議(J Aグループ山形)		7日	県内新規就農者280人、過去最多を更新と県が発表
	13日	県が日本型直接支払制度の説明会(山形市)		8日	酒田市の刈屋梨、香港へ初輸出(J A全農山形など)
	20日	県が2015年度当初予算案内示。農林水産449億4060万円		11日	低温・日照不足で県、J Aなどが緊急技術対策会議
5月	21日	サクランボ労働力確保へプロジェクトチーム会議発足	11月	8日	米概算金「つや姫」1万5千円前後、「はえぬき」1万円前後
	23日	農協改革で自民党県連と意見交換会(J Aグループ山形)		12日	今田正夫・前J A山形中央会会長の黄綬褒章受章祝う(天童市)
	28日	「山形112号」導入へ検討チーム会議初会合(県とJ Aなど)		14日	適期刈り取りキャラバン開始(県とJ Aなど)
	31日	水稲「山形112号」を優良品種に。県が公報で告示		15日	農地受け手、メールでも募集受付(山形県農地中間管理機構)
6月	9日	東根、山形、上山などでサクランボなどに降霜被害	12月	1日	J A山形中央会内に「地域・担い手サポートセンター」発足
	22日	オールやまがた米づくり日本一運動本部発足		5日	山形、酒田地域センターを廃止、山形支局と酒田駐在所に
	23日	サクランボ労働力確保徹底へ広報キャラバン開始(県、J Aなど)		6日	ミラノ万博に視察団(J Aグループ山形)
	24日	「園芸王国」へ園芸拡大推進大会(J A全農山形)		8日	T P P交渉大筋合意
7月	27日	サクランボ労働力確保推進協議会設立(県、J Aなど)	1月	6日	県議者がT P Pで意見書採択
	28日	「さくらんぼ体操」お披露目		8日	置賜自給圏推進機構が共同購入開始
	30日	反T P P統一街宣(断固反対山形県連絡会議)		9日	J A山形中央会と県内農業教育関係者が意見交換
	1日	ブドウ「サニールージュ」おきたまブランド普及会設立		12日	ドキュメンタリー映画「無音の叫び声」先行上映(山形市)
8月	10日	高温に関する技術対策会議(県、J Aなど)	2月	1日	J A山形農工連が、みどりサービスと全事業譲渡契約を締結
	18日	J Aてんどう新組合長に金芳芳氏		2日	第34回山形県土地改良大会(山形市)
	20日	ナラン対策プロジェクト検討チーム会議(県、J Aなど)		3日	農業大学校で大キャベツ「王様キャベツの雪太郎」コンテスト
	21日	県内約70カ所で統一街宣(断固反対山形県連絡会議)		6~10日	県がT P Pで農林水産分野の地域別説明・意見交換会
9月	24、25日	第10回全国山菜サミット(大江町)	3月	8日	J Aみちのく村山合併20周年式典
	1日	高温・乾燥で緊急技術対策会議(県、J Aなど)		10日	県選出自民党国会議員にT P Pで要請(J Aグループ山形)
	2日	サクランボ世界一プロジェクト推進会議発足(県、J Aなど)		12日	政府のT P P関連政策大綱へ県が提案・要望案まとめる
	5日	日本一サクランボ産地総決起大会(山形市)		13日	星川功・前J Aそでうら組合長らに山形県農業賞
10月	9日	日本一エダマメ産地確立へプロジェクト会議(県、J Aなど)	4月	14日	J A庄内たがわ合併20周年式典
	15日	吉村美栄子知事に農政支援要請(J Aグループ山形)		15日	第2回全国伝統野菜サミット(山形市)
	16日	サクランボ輸出拡大へ合同会議(県、J Aなど)		17日	奥田政行シェフを「山形セリラー大使」に(J A山形市)
	17日	西洋梨梨病防止対策プロジェクト始動(県、J Aなど)		17日	第27回J A山形県大会。「創造的自己改革への挑戦」
11月	18日	県農業再生協議会が臨時総会。飼料用米への転換加速確認	5月	20日	T P P断固反対山形県連絡会議が対策会議
	19日	J A鶴岡の新組合長に本間孝氏		22日	置賜自給圏推進機構のシンボルマーク発表
	20日	J A新庄市の経営管理委員会会長に山科朝則氏		27日	4地域で県が畜産分野のT P P大筋合意説明・意見交換会
	22日	J Aやまがた情報誌「クローバー」創刊イベント		30日	農林業センサス概数値発表。県内耕作放棄地8142ha
12月	25日	T P P国会決議順守求め、県議者に請願書(J Aグループ山形)	6月	24~30日	2016年産主食用米生産数量目標743万t。本県34万830t
	29日	共通会長に長澤豊氏再任、副会長に阿部茂昭氏新任		4日	輸出用新包装材共同研究開発で契約締結(J A全農山形と山形大)
	30日	台湾の大立百貨店と農産物販売で協定(J A全農山形)		6日	参院選山形・自民党候補者公募に月野薫氏、斎藤弘氏名乗り
		山形大で初の合同職場説明会(J Aグループ山形)		17日	県内水稲作況指数103.10 a 収量614kg。全国100.531kg

TPPに怒りと不安

急進改革、現場置き去り

山形の農業この一年

環太平洋連携協定(TPP)交渉の大筋合意、官邸主導による急進的な農政、農業、農協改革に、県内農業関係者は翻弄(ほんろう)される日が続いた。地方の現場は十分な説明もないまま、経済一辺倒の強硬な政策に置き去りにされた。怒りと不安に揺れた戦後70年の山形の農業の一年を振り返る。

米価下落、昨冬の6倍という雪害の重苦しさの中で年は明けた。農水省は、主食用米の需給均衡による米価下落回避に向け、生産数量目標を上回る深掘りと飼料用米への転換を現場に求めた。

日豪経済連携協定(EPA)が1月に発効。世界で一番企業が活動しやすい国を目指す自由化と規制改革の流れは、戦後70年の節目にも立ち止まることはなかった。改正農協法が8月に成立。10月にはT P P交渉が大筋合意し、出来秋を曇らせた。重要な品目と

ころか、サクランボやブドウ、リンゴ、野菜まで関税撤廃が明らかになり、不信が渦巻いた。県は「T P Pのメリットは大企業や大都市圏などに限られ、悪影響は農業を基盤とする地方に集中し、格差が拡大する恐れがある」と懸念。J Aグループなどと共に国会



地域貢献 J Aグループは山形大医学部の重粒子線がん治療設備を支援する(3月)



農協改革 国会議員にも切実な要請が続いた(1月)



世界一へ サクランボ産地が総決起大会を開いた(6月)



反TPP 寄せ書きに願いを託して(7月)



異常気象 高温続きでリンゴなどに日焼け果が出た(8月)



大筋合意 不安が渦巻いた県と生産者らの意見交換会(11月)



自己改革 決意を新たに山形県大会(11月)

決意との整合性検証や十分な説明などを求めたが、臨時国会召集にも応じない政府の不誠実な対応に怒りが増幅した。一方、農業や地域振興策も地道な模索が続いた。サクランボは日本一から世界一を目指すプランが始動。ブラン

ド米「つや姫」に次ぐ「山形112号」の導入検討もスタート。「園芸王国山形」実現に向け氣勢を上げ、J A全農山形は台湾の大立百貨店と農産物販売協定を結んだ。J A山形中央会内には、県域組織を横断する地域・担い手サポートセンターが発足した。新規就農者は280人と過去最高を更新。6年連続200人超えが続く。豪雪や高温低温・日照不足と、温暖化で気象も不安定さを増している。強政治が続く中、地域や日本の食と農、暮らしはどうなるのか、不安を抱えたまま年を越す。